

# 平成 30 年度学生等評価の令和 3 年度改善状況報告書

令和 4 年 11 月 4 日

評 価 会 議

## はじめに

### 本報告書について

静岡大学では、学生等による評価に関する基本方針に基づき、評価会議の下、学生等による評価（以下「学生等評価」という。）を実施しています。この学生等評価は、学生の学習、生活、進路に関する支援及び教育の成果や効果などについて、在学生及び卒業生、就職先企業、保護者等に対してアンケート調査を行い、学生のキャンパスライフの質的向上と教育改善を通じて魅力ある大学を目指すことを目的としています。直近では、平成30年度に学生等評価を実施しており、その結果は評価会議において分析され、分析結果に基づいて各実施組織において改善計画を策定しています。

本報告書は、各実施組織が定めた改善計画のうち、未達成の計画について、令和3年度中の取組状況を取りまとめたものです。改善計画を適切に実施することにより、さらなる組織の改善、活性化に向けて大学全体で取り組んでいきます。

評価会議議長

金原和秀

## 本年度の成果について

各実施組織が定めた改善計画 24 件のうち、令和 3 年度の取り組みによって、12 件を達成することができた。

「英語力の向上」については、多くの部局で改善事項として認識されており、改善のための取り組みとして、工学部では、学生が自由に利用できる e-learning 英語学習サービス NetAcademy Next を導入し、自発的に英語を学べる環境を整えた。またいくつかの学科においては、英語教育科目「アカデミックイングリッシュ」にて同サービスを活用した演習を課し、TOEIC スコアをはじめ全体的な英語力強化に向けた取り組みを実施した。総合科学技術研究科情報学専攻においては、学部英語授業の見直しに伴い、情報学専攻の授業科目において英語対応科目を導入した。これにより情報学分野の英語力をはじめとする全般的な英語力を高める場の提供ができた。また、専門分野での英語発表力を強化するための場として、教務委員会主導の英語論文発表会を開催した。創造科学技術大学院においては、「ISFAR-SU 2022」（2022 年 3 月 1 日開催）への参加を奨励し、英文予稿集作成、英語発表動画の作成、英語でのショートプレゼンテーションと質疑応答など、随所に英語によるコミュニケーションを義務付けることによって英語のスキル向上を図った。英語関係科目（「実用科学技術英会話Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術文書表現法」）も継続的に実施し、効果的な英語教育に取り組んだ。

インターネット環境の改善として、教育学部では、附属幼稚園の Wi-Fi 環境改善（Wi-Fi メッシュネットワークの導入）、附属特別支援学校の有線接続の支援、IP アドレス管理方法の変更についての検討を行った。

人文社会科学部研究科及び総合科学技術研究科では、プレゼンテーション能力の向上が課題となっていたが、人文社会科学部研究科では、プレゼンテーションの機会を増やすため、学務委員会にて、以前より専攻単位で実施していた修士論文中間発表会等を全専攻で実施することとした。また、口頭試問と合わせた形で実施されてきた修士論文の最終発表会についても、全専攻で実施することとした。総合科学技術研究科情報学専攻では、プレゼンテーション能力の涵養に関する取り組みの現状把握を行い、修士論文構想発表・中間発表も外部学会発表での代替を勧め、積極的な対外発表推進によりプレゼンテーション能力の向上を図った。

## 実施組織ごとの取組状況

人文社会科学部・人文社会科学研究科

改善事項
【学部】初年次における学習相談・支援の強化
改善状況
令和3年度には教務委員会を通じて新入生セミナー担当者に対し、各教員のオフィスアワーなどを利用し個別に学習相談ができること、またそれを推奨することを学生に伝えるよう依頼した。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
【学部】「文系的な体験的学習」の在り方に関する整理・検討及び検討結果の教員・学生への周知
改善状況
内部質保証・教育企画委員会にて、文系的な体験的学習とは必ずしも実験やフィールドワークに限るものではなく、アクティブ・ラーニングと重なるところも多いものであることを評価実施委員会において確認し、該当する科目の担当者はシラバスにおいて、その旨、学生に明瞭に伝わるよう記載することとした。具体的には、教務委員会を通じて各学科で該当する科目については、授業欄に「体験的学習科目」である旨明記するよう令和3年度中に周知した。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
【学部】外国語に関する運用能力の向上を図るための取り組み強化
改善状況
留学を促す施策を実施・計画した。既に「留学のためのガイダンス」を年2回（4月と11月）に行うようになっており、海外研修I～Vを含む各種留学制度について系統的に紹介した。しかし、これまでガイダンス参加者数が少ないこともあったため、参加者を増やすための工夫を検討・実施した。ただし、令和2年度はコロナ感染拡大のため前期中にガイダンスを開催できず、11月にオンデマンド方式で紹介・説明を行った。

<p>また、留学を推進するために、令和3年度には教務委員会を通じ、来年度の新入生セミナー担当者に対して、「教育の国際化」のビデオセット（90分程度）を学生に視聴させるなど、留学への関心を高める時間をセミナー内に設けるよう依頼した。令和4年度以降もこれを継続していく。</p>
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
【学部】 自主的学習を促すための方法に関する検討
改善状況
<p>部内FD委員会において、「コロナ後のオンライン教材を活用した大学教育の展望」と題する2名の外部講師による講演とFD委員等を交えた討論の様相を収録した研修用ビデオ（80分程度）を作成しており、このビデオをFD委員長名で部内教員に配信し、各自視聴することを促した（令和3年9月まで）。とりわけ討論部分においては、オンライン反転学習を活用しての時間外学習を促す方法について議論が及んだ。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>すでに一定の取り組みがなされていたが、同様の取り組みを継続することが必要であるかは令和4年度にも検討する予定である。</p>

改善事項
【大学院】 プレゼンテーション能力向上を図る取り組みの強化
改善状況
<p>プレゼンテーションの機会を増加させるため、学務委員会にて、以前より部分的には専攻単位で実施されてきた修士論文中間発表会、あるいはそれに類するもの（例えばコース単位での発表会）を令和3年度より、全専攻で実施することとした。また、口頭試問と合わせた形で実施されてきた修士論文の最終発表会についても、全専攻で実施することとした。</p>
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
【学部】 国際的視野の涵養・伸長を図るための取り組みの強化
改善状況
<p>「国際的視野」という用語はもともと「学びの実態調査」内で使用されたものであるが、新設された部内国際戦略WGにおいて、部内での理念的な検討も通して合意できる規定が必要であるという結論に至った。そのため令和3年度には、同WGで原案を作成し、概ね下記の文案が学部企画会議で了承された。「国際的視野 (global perspective)」とは「多様な社会・文化への関心や理解があり、国際的な相互的影響関係において自分(たち)の行動を考えることができること」であり、本学部の「国際化」とはこうした視野を涵養することとなる。そのため的手段として、他言語の習得・熟達、留学経験、他国からの留学生との交流、オンライン留学・協働授業の経験などが位置づけられる。そして「取組の強化」としては、組織評価改善事項の6（外国語副専攻プログラムの履修促進）、7（オンライン留学の導入等、留学促進策の強化）で記載された事柄がなされた。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>令和3年度までに一定の強化はなされた。さらなる方策については、その必要性も含め令和4年度に再度検討する。</p>

教育学部・教育学研究科

改善事項
授業時間外における，授業課題や準備学習，復習をする1週間当たりの時間
改善状況
本年度もコロナウィルス対策としてオンデマンド式のオンライン授業は実施したが、対面学習が制限されたため反転学習は行えていない。ただし、オンライン授業の改善が進んで負担の大きい授業科目がなくなってきたため、一部の科目では小テストや掲示板への書き込みを導入し、授業時間外の学習に取り組んだ。
達成年度（予定を含む）
改善の取り組みは令和5年度には達成する計画であった。ただし、コロナウィルス対策のため2年間取り組みが進まなかったため、一部後ろ倒しになる可能性がある。

改善事項
インターネットの使いやすさ
改善状況
<p>令和3年度には以下の取り組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属幼稚園のWi-Fi環境改善（Wi-Fiメッシュネットワークの導入）</li> <li>・附属特別支援学校の有線接続の支援</li> <li>・IPアドレス管理方法の変更についての検討</li> </ul> <p>また、以下の取り組みを継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットに由来する各種脅威に対する対策の支援・指導</li> <li>・帯域調査（毎週）</li> <li>・学部が設置したアクセスポイントのメンテナンス（ファームアップデートなど）</li> </ul>
達成年度（予定を含む）
<p>教育学部が設置するアクセスポイントに関しては令和2年度に達成済みである。（I棟及びJ棟の大規模改修工事後に一部のスペースが地域創造学環に割り当てられ、アクセスポイントの設置が要望されている。来年度以降、教育学部として協力できることは協力していく。）</p> <p>研究室等が設置するアクセスポイントに関しては、令和3年度に検討したIPアドレス管理方法の変更を令和4年度には実現し、それに合わせて運用体制を改善する予定である。</p>

改善事項
教員志望率が低い
改善状況
<p>平成30年度の調査時点では、3年生の教員志望率が69%であった。調査が異なるため比較は慎重に行わなければならないが、本年度前期における3年生の教員志望率は71.1%でありほとんど変わっていない。</p> <p>※教員志望率向上のため平成30年度から教職キャリア形成プログラムを導入したが、コロナウィルスのためプログラムを構成する様々な活動が実施できていないため、その効果が限定的である可能性もある。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>令和3年度入学者選抜から小論文が導入されたが、入学時点での教職希望率は有意に向上していない。この原因を検討・改善し、令和5年度の3年生で教員志望率の改善を予定している。</p>

情報学部

改善事項
英語力の向上
改善状況
<p>平成31年度から、本学部における学部共通科目や専門科目の英語科目の改善を目指し、英語担当教員で構成される科目検討グループを組織し授業内容の見直しを進めた。令和2年度から学部共通科目である「コミュニケーションスキルズⅠ」を通年開講にし、内容も情報学部にあふさわしいものにするなど検討結果をカリキュラムに反映した。</p> <p>カリキュラムや科目の内容変更による効果を確認するためには一定の時間が必要であるため、令和4年度以降も継続して、内容変更による効果を補足しつつ、今後の内容改訂を検討する。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>情報学部では令和2年度から新カリキュラムが開始された。次のカリキュラム改訂に合わせて英語科目の見直しを行うことを目標に、内部質保証委員会を中心として継続的に授業効果を調査・分析する。</p>

改善事項
国際的視野の涵養
改善状況
<p>令和2年度には、点検・評価委員会において改善主体等について検討した。令和3年度に関係委員会等においてオンラインによる国際的な交流機会の拡大支援などを含め検討を行った内容に基づいて、令和4年度から社会情勢の変化も踏まえたさらなる検討を進め、実施をする。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>令和4年度から社会情勢の変化も踏まえたさらなる検討を進め実施をする。国際性の涵養には一定の時間がかかることが予想されるが、効果を測る指標の検討を含め、継続的に改善を行う。</p>

改善事項
学生のリーダーシップ涵養
改善状況
令和2年度には、点検・評価委員会において改善主体等について検討した。令和3年度には、教務委員会を主体として、学生のリーダーシップ涵養のための授業内容・授業方法を検討した。令和4年度以降も、継続的に、令和2年度からの新カリキュラムの効果を確認し、学生のリーダーシップを養成する授業内容・授業方法を見直していく。
達成年度（予定を含む）
令和4年度以降も、内部質保証委員会と教務委員会を中心として新カリキュラムの効果を確認し、次回のカリキュラム改訂を目標に、学生のリーダーシップを養成するようなカリキュラムや科目の改訂を行う。

改善事項
地域連携の深化・プレゼンス向上
改善状況
令和2年度に点検・評価委員会において改善主体等について検討した。 情報学部では、学部に地域連携推進室を設置し地域連携活動の深化や広報活動を行なっている。一方、共同研究や受託研究など研究資金を伴った地域連携事業は全学組織であるイノベーション社会連携推進機構が担っている。令和3年度には、地域連携推進室を中心に全学組織との役割分担について検討し必要な施策の実施を進めており、令和4年度以降も地域連携の深化・プレゼンス向上のための施策の検討を継続して進める。
達成年度（予定を含む）
令和3年度に地域連携推進室を中心とした検討を行った。地域連携の深化には一定の時間が必要と考えられるため、継続的に活動と見直しを行う。

理学部

改善事項
授業内容のフォローアップの強化、インターネットを利用した授業の整備
改善状況
令和4年度に、授業内容のフォローアップ強化として、復習機会の充実等を目的に、コロナ禍で蓄積したオンデマンド教材の利活用を推進する。この推進のために、学務情報システムのビデオカタログ機能等を用いた理学部ライブラリー（仮称）の開設等、情報通信技術を利用した教育環境の構築を目指す。
達成年度（予定を含む）
令和4年度

改善事項
ICT（情報通信技術）活用能力の向上
改善状況
「教養的な数理データサイエンス教育」から有機的に接続する「実践的な数理データサイエンス教育」の導入により、ICT（情報通信技術）活用能力の向上を目指した。令和4年度から、情報系企業との連携による特別教育プログラム「実践データサイエンス力育成プログラム」を開始する。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
コミュニケーション能力の向上
改善状況
令和2年度にグループワーク可能な施設の充実とともに、授業（演習）中に学生同士が議論する機会の増加を図ることを教授会等で共有した。これを受けて、オールインワンのデジタル対話型ホワイトボードを導入した。令和3年度は、コミュニケーション能力の向上を目指し、Teamsを使った創造理学コースの授業のシステムを構築した。また、令和3年度に創造理学コースのオンライン英語研修システムの構築を開始し、令和4年度の完成を目指している。

達成年度（予定を含む）
令和4年度

改善事項
静岡大学の地元高校へのPR
改善状況
令和2年度に編成したプロジェクトチームは、高大連携の一環として、令和3年度に、県内の公立高校を積極的に訪問するなど交流機会を構築し、本学部の魅力を伝える学部説明会の開催や学術的な研究交流活動を主導した。このように、プロジェクトチームは、県内の高校への魅力発信に一定の役割を果たしている。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

工学部

改善事項
学生の英語力の向上
改善状況
学生が自由に利用できるe-learning英語学習サービスNetAcademy Nextを導入し、自発的に英語を学べる環境を整えた。またいくつかの学科においては、英語教育科目「アカデミックイングリッシュ」にて同サービスを活用した演習を課し、TOEICスコアをはじめ全体的な英語力強化に向けた取り組みを実施した。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

農学部

改善事項
数理的な能力の育成
改善状況
旧来の情報処理2単位を、「数理・データサイエンス入門(1単位)」、「情報処理・データサイエンス演習(2単位)」に拡充した。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項
英語（外国語）能力の向上
改善状況
<p><b>【理学専攻】</b></p> <p>各研究室の研究活動において、学生間の実験の相互協力や質疑応答機会の充実により協働性やチームワークの育成を促進するとともに、研究テーマの適切な遂行を通じてリーダーシップに必要な不可欠な論理性、計画性や実行性を指導した。研究活動がリーダーシップに繋がる人材の育成に役割を果たした。学生支援センターの協力を得て企業等において実習・研究などを就業体験可能な科目を開講したほか、情報サイト系の会社の協力を得て学部3年生及び修士1年生を対象としたオンラインガイダンスを開催することによりキャリア形成の支援に繋がった。</p> <p><b>【情報学専攻】</b></p> <p>学部英語授業の見直しに伴い、情報学専攻の授業科目において英語対応科目を導入した。設置のもともとの目的は、アジアブリッジプログラム（ABP）英語コース 修士学生のために英語による講義の受講を可能にすることであったが、日本人の修士学生も日本語と英語でのバイリンガルの講義を受講することになり、情報学分野の英語力をはじめとする全般的な英語力を高める場の提供ができた。また、専門分野での英語発表力を強化するための場として、教務委員会主導の英語論文発表会を開催した。今後も継続的に検討・改善を実施する。</p> <p><b>【工学専攻】</b></p> <p>一般入試に加え自己推薦入試においてもTOEICスコアの利用を実施し、学生の英語スキル向上に向けた意識づけを高めた。これにより、学生のTOEICスコアが大学入学時に比べて大きく向上した。また、e-learning英語学習サービスNetAcademy Nextにより、自発的に英語を学べる環境を整備し、継続的な英語学習の機会を提供した。一方、授業科目においては、英語対応科目を多く配置した。一部コースでは英語のみで実施される英語対応科目を必修科目としており、専門科目を英語により履修することで、国際的に活躍しうる人材育成に努めた。</p>
達成年度（予定を含む）
<p><b>【理学専攻】</b> 令和3年度</p> <p><b>【情報学専攻】</b> 令和3年度</p> <p><b>【工学専攻】</b> 令和3年度</p>

改善事項
国際的視野の涵養
改善状況
<p><b>【情報学専攻】</b></p> <p>令和3年度、総合科学技術研究科の4専攻対象に、国際交流に基づく国際的視野の涵養を目的とした「インターアカデミア アジア ABP修士オンラインミーティング」が国際連携推進室の企画によりZoomオンラインで開催され、アジアの大学の教員・大学院生同士の交流が行われた。</p>
達成年度（予定を含む）
<p><b>【情報学専攻】</b></p> <p>令和3年度</p>

改善事項
プレゼンテーション能力の涵養
改善状況
<p><b>【情報学専攻】</b></p> <p>プレゼンテーション能力の涵養に関する取り組みの現状把握を行い、修士論文構想発表・中間発表も外部学会発表での代替を勧め、積極的な対外発表推進によりプレゼンテーション能力の向上を図った。また修士論文提出前の学会発表を必須としたため、全ての修了生が一度は学会発表を行ったことになる。令和4年度以降、継続的に実施する。</p>
達成年度（予定を含む）
<p><b>【情報学専攻】</b></p> <p>令和3年度</p>

創造科学技術大学院

改善事項
英語教育の強化
改善状況
静岡大学において、創造科学技術大学院、電子工学研究所、グリーン科学技術研究所、超領域研究推進本部、光医工学研究科が共催し、国際連携推進機構がサポートする国際シンポジウム「ISFAR-SU 2022」（2022年3月1日開催）への参加を奨励した。英文予稿集作成、英語発表動画の作成、英語でのショートプレゼンテーションと質疑応答など、随所に英語によるコミュニケーションを義務付けることによって英語のスキル向上を図った。英語関係科目（「実用科学技術英会話Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術文書表現法」）も継続的に実施し、効果的な英語教育に取り組んだ。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

## 地域創造学環

改善事項
本学における総合的な満足度に関する設問の内、「キャンパス環境・設備」の満足度が非常に低かった。地域創造学環の基盤となる施設がないことが要因と考えられる。
改善状況
平成30年度から教育J棟に地域創造学環事務室を移設することにより、それまで東部キャンパス内に点在していた学環機能を集約する方向で学内整備が検討されてきた。その後、令和3年度に教育学部I棟およびJ棟の改修に伴う地域創造学環の集約工事の実施が決定し、地域創造学環棟の設置及び集約化が実施された。
達成年度（予定を含む）
令和3年度に教育学部I棟及びJ棟の改修工事が実施され、令和4年3月10日に竣工した。その結果、令和4年4月からは教育J棟（名称変更：地域創造学環棟）が地域創造学環管理となり、また教育I棟の2階も学環の研究室等として活動を開始することとなった。地域サステナビリティコース（地域経営分野、地域共生分野、地域環境・防災分野）のまともりはまだ未達ではあるが、学環の基盤となる本拠地の確立と学環機能の集約は達成し、学生の満足度も上がるものと予想される。